

ランドセル俳人の
五・七・五

紅葉で 神が染めたる 天地かな
冬蜘蛛(くも)が 糸にからまる 受難かな
水仙や セラピーされる 僕だけど (8歳)

迷い蝉(セミ) 君の命は あと五日
(9歳)

成虫に なれず無念の かぶと虫(10歳)
万華鏡 小部屋に上がる 花火かな
(11歳)

「いじめられ 行きたし行けぬ 春の雨」
 「いじめ受け 土手の蒲公英 一人つむ」
 (たんぼぼ)

「秋晴れの 心の晴れぬ いじめかな」
 (11歳)

今 僕は 俳句があるから
 いじめと闘えている

「春の虫 踏むなせっかく 生きてきた」

おはようございます。今日は、1冊の本を紹介したいと思います。ランドセル俳人の575という本で昨年出版されました。ひょっとしたら読んだ人がいるかもしれませんが、涙なしには読めません。作者は大阪在住、現在小6の西村凜太郎という人です。小林凜というのは(俳句を詠む人のニックネーム)俳号です。この4月には中学生です。幼稚園の頃からテレビや絵本で俳句を覚え詠むようになったそうです。小学3年生のときに初めて朝日新聞の投稿コーナー「朝日歌壇」に応募した「紅葉で神が染めたる天地かな」という句が大人に交じて入選。その後も入選を繰り返し、“天才児があらわれた”と評判を呼んでいます。

春夏秋冬を詠んだみずみずしいこのような俳句があります。紅葉で 神が染めたる 天地かな
 冬蜘蛛(くも)が 糸にからまる 受難かな 水仙や セラピーされる僕だけど (8歳)
 迷い蟬(セミ)君の命は あと五日 (9歳)
 成虫に なれず無念の かぶと虫 (10歳)
 「万華鏡 小部屋に上がる 花火かな」 (11歳)

今日はこの素晴らしい人や俳句だけを紹介するのではなく、この凜太郎君が小学校でいじめを受け、不登校の生活を送っていたことを紹介したいのです。こういう句も詠んでいます。

「いじめられ 行きたし行けぬ 春の雨」
 「いじめ受け 土手の蒲公英(たんぼぼ) 一人つむ」
 「秋晴れの 心晴れぬ いじめかな」

いじめは小学1年のころからはじまった。949グラムの低体重で生まれ、幼稚園の卒園時には体格も平均に追いついたそうだが、脚力や腕力は弱かった。本人のまえがきによれば、「からかわれ、殴られ、蹴られ、階段でぶつかってきたり、危険な行為が続き、時には“消えろ、クズ！”とののしられています。それが小5まで続いた」ようです。皆さんも小学校の時、同じようなことを見聞きしたことがあるかもしれません。小5までと言いましたが5年間も続いているのです！ほんと大問題ですね！中学校でのいじめは思春期にも入り、より一層傷つき重大なことになります。昨年も大津でいじめによる大きな事件があったことは知っているはず。これだけ言われて社会問題にもなっているにも係らず、中学校でもあるのは本当に残念を通り越して腹立たしいことです。凧太郎君はこうも言っています。「今 僕は 俳句があるからいじめと闘っている。」と自ら奮い立たせていますが、みんなそんなに強くありません！！

先週の朝礼で今の学級・学年での生活は残り1ヶ月余りです...“励まし合える仲間”になりましょう。といいました！ほんま、互いにマイナスになるようなことはしていませんか？困っている人はいませんか？人の嫌がることをしている人はいませんか？ちょっとくらいといいやろ...といい加減なことをしていませんか？そんなことをしていると身体は黙っていても成長しますが心は成長しません。しかし、自らの行為を色々な人の指導によって真剣に反省することで心が成長するパスです。又、見て見ぬふりをしている人が多いとますます重大なことになります。お互いに高め合う切磋琢磨する仲間を作る。今一度、自分のクラスの中をもう一度見渡して下さい。

最後にこの句を紹介したいと思います。「春の虫 踏むな せつかく 生きてきた」凧太郎君の経験したからこそその思いやりと強さが表れていますね。自分が嫌なことは他人も嫌なのです。皆さん、いじめは絶対許さないという気概を持って欲しいと思います。以上でお話を終わります。